

令和4年度

第2回熊本県糖尿病療養指導士研修会(報告)

主 催 熊本県糖尿病療養指導士会

日 時 令和5年 3月12日(日) 9:30~13:10

会 場 名 くまもと森都心プラザ 会議室

◇『糖尿病患者サポートの向上を目指して

～ 個々の症例へのアプローチ、大分県内での様々な支援活動について ～』

講師:大分県立病院 内分泌・代謝内科 田中 克宏先生

「糖尿病患者とのコミュニケーションが大切、患者中心であること」

先生のご講演の中で、コミュニケーション、患者中心、この言葉を何度もお話されました。

糖尿病教育のポイントは、従来のライフスタイルを変容させる動機付け(アドヒアランスの確立)、効果をあげている自己管理を維持させる(自己効力感)が大切で、療養指導に携わる私たちは、糖尿病を持つ人たちが、糖尿病は自分の力でコントロールできることを自覚させ、その発展を手伝うこと。「教えるー教わる」という関係ではなく、患者が中心であり、医療者は患者に協力して問題を解決していくことを目指さなければいけない。そのため、一方的に知識を伝授するだけでなくコミュニケーション、心理状態の把握が大切であることを改めて教えていただきました。

また、大分県内で活動されている LCDE の支援活動をはじめ、料理コンテスト、調理実習などをとり入れた研修内容など積極的な活動をご紹介いただきました。

◇『最小血管合併症』

講師:JCHO 熊本総合病院・糖尿病センター 本島 寛之先生

糖尿病の最小血管合併症、網膜症、神経障害、腎症について病態から管理、内服薬など一つ一つわかりやすく講義いただきました。

療養指導では、これら合併症すべてにおいて、「血糖・血圧・脂質管理」この3つの管理が重要であること「糖尿病を放置させない、治療を中断させない」これに尽きるというお話しいただき、日々の療養指導での地道な管理の必要性を再認識しました。

最後に先生からいただきましたメッセージをご紹介します。

「糖尿病および糖尿病合併症の早期発見・早期介入を実現しましょう。治療中断を阻止するとともに、行政の保健師や地域の医療スタッフの皆さんとも協力しながら治療中断者の治療再開を目指しましょう！不十分な治療で、合併症が進行してしまいそうな症例は、糖尿病専門医や腎臓専門医に遠慮なく相談し、できるだけ早く適切な治療となるよう目配りをお願いします。まずは勤務先の地域の、ひいては熊本県全体の糖尿病による合併症に苦しむ患者さんを減らして参りましょう！」

今回の研修では、糖尿病患者サポートのあり方を、実際のサポートをとおして、合併症予防からの異なる視点で田中先生、本島先生からご講演いただきました。
ご講演頂きました田中先生、本島先生、ありがとうございました。

また、ニプロ株式会社より自己血糖測定器のご紹介をいただきました。



【田中先生講演の様子】



【本島先生講演の様子】